

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133   A-142	23-096	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)		
The prevalence of alcohol consumption and its related factors in adolescents: Findings from Global School-based Student Health Survey 青少年におけるアルコール摂取率と関連因子：世界学校ベース学生健康調査からの結果		
執筆者		
Farnia V, Ahmadi Jouybari T, Salemi S, Moradinazar M, Khosravi Shadmani F, Rahami B, Alikhani M, Bahadorinia S, Mohammadi Majd T.		
掲載誌		
PLoS One. 2024 Apr 1;19(4):e0297225. doi: 10.1371/journal.pone.0297225.		
キーワード		PMID
アルコール摂取率、青少年、横断研究、アルコール摂取に影響を及ぼす要因		38558070
要旨		
<p><b>目的：</b>アルコール摂取は近年青少年で一般的になっており、摂取率は国によって異なる。本研究では11～16歳の青少年におけるアルコール摂取率と関連因子を検討した。</p> <p><b>方法：</b>青少年288,385人(女子53.9%)を対象とした記述的横断研究である。本研究では、米国疾病予防管理センター及びWHOのウェブサイトで公開されている世界学校ベースの学生健康調査データ(2003～2018年)を用いた。アルコール摂取に影響を及ぼす要因を検討するために、単変量および多変量ロジスティックモデルを用いて、オッズ比(OR)と95%信頼区間(CI)を算出した。</p> <p><b>結果：</b>アルコール摂取率は全体25.2%、男子28.3%、女子22.4%であった。調査対象国の中で最も摂取率が高い国はセイシェル57.9%、最も低い国はタジキスタン0.7%であった。多変量解析の結果、アルコール摂取に影響を及ぼす要因として16歳以上(OR=3.08, 95% CI: 2.54-3.74)、10日以上の無断欠席(OR=1.24, 95% CI: 1.08-1.43)、時々の孤独感(OR=1.04, 95% CI: 1.01-1.07)、不眠症(OR=1.85, 95% CI: 1.70-2.01)、日常活動(OR=1.03, 95% CI: 1.00-1.07)、月に1-9日間のいじめ(OR=1.24, 95% CI: 1.09-1.40)、喫煙(OR=4.01, 95% CI: 3.86-4.17)、月に10日以上マリファナを使用(OR=5.58, 95% CI: 4.59-7.78)、性交渉あり(OR=2.76, 95% CI: 2.68-2.84)、自殺計画あり(OR=1.48, 95% CI: 1.42-1.54)が有意であった。本研究の感度は42.79%、特異度は93.96%、陽性予測値は70.80%、陰性予測値は82.75%であった。</p> <p><b>結論：</b>青少年における飲酒率は高く、アルコール摂取の予防と治療のための保健プログラムにおいて、人口統計学的要因、家族的要因、心理学的要因を考慮することが重要である。</p>		